



広島大学ホームカミングデー企画(東千田キャンパス)
法学部特別公開講座

政治倫理と法

今後の法治のあり方を考える

日程	2023年11月2日(木) 18:30~20:30	
受講形態	対面	東千田キャンパス総合校舎L棟5階地域連携フロアSENDA LAB ※公共交通機関または近隣の有料駐車場をご利用ください。
	オンライン	Z o o m
対象	どなたでも (高校生、大学生も歓迎！)	
定員	(対面) 40人 (オンライン) 100人 (申込先着順)	
プログラム		

受講料
無料

1時限目 講義 (18:30 ~ 19:30)

捜査について考える際の視点～取調べと自白～
取調べの可視化という視点
記者が見た!“政治とカネ”の源流
大正デモクラシーでも暗し選挙事情

広島大学 准教授	堀田 尚徳
広島弁護士会	井上 明彦
テレビ新広島報道部	福田 康浩
広島大学 准教授	湯川 勇人

2時限目 ディスカッション (19:35~20:30)

司会 広島大学 教授 吉中 信人
1時限目の講師4人によるフリーディスカッション
※受講者からご質問・ご意見をいただきながら、進めていきます。

申込方法

締切：10月31日(火)

申込フォームからお申込みください。
<https://forms.gle/JPNnBJ4Uwd5BTMQ9A>



会場マップ

総合校舎L棟5階



お問い合わせ先
広島大学学術・社会連携部地域連携部門
082-424-5691



昨今、政治家の腐敗をめぐる問題は、益々注目されています。広島出身の元法務大臣が公職選挙法違反で有罪判決を受け、実刑を科されるなど、地元にも大きな衝撃を与えました。このトークイベントでは、弁護士、報道、刑事法学者、政治学者、の4つ異なる立場から、政治とカネをめぐる問題に鋭く切り込みます。

捜査について考える際の視点～取調べと自白～

堀田 尚徳 氏(人間社会科学研究科実務法学プログラム准教授)



私たちが捜査機関による犯罪の捜査について考える際には、いくつかの視点を持っておくことが有益です。この講義では、取調べと自白をキーワードにして、簡単な設例を用いながら専門用語の解説を行い、最終的には、捜査について考える際の視点を参加者の皆さんと共有することを目指します。

取調べの可視化という視点

井上 明彦 氏(広島弁護士会 広島法律事務所 弁護士)



私は、長年、取調べの可視化に関わっています。元法務大臣の公選法違反事件では、お金を受領した議員等の取調べが「全て」ではなく「一部」の録画に止まっていたようです。私は、「一部」では取調べの「可視化」にはならず、大いに問題であると考えます。ただ、私にとっては当たり前のこの問題意識は、必ずしも多数派ではないのではないかと、そんな不安を抱きつつ、当日を楽しみにしています。

記者が見た!“政治とカネ”の源流

福田 康浩 氏(株式会社テレビ新広島 報道制作局次長兼編集長兼アナウンス部長)



駆け出し記者だった私が政治に関心を抱いたキッカケ。それは「無菌状態」で飛び込んだ「選挙取材」でした。やがて知る大型事業もまた然り。「政治力」と聞こえてくるところ、どこかに“カネ”の話が出てきます。あれから30余年… もはや慣れっこの私も呆れる事件で法務大臣経験者が逮捕される有様(夫妻で)。これが政事(まつりごと)の常とは… 言わせません!

大正デモクラシーでも暗し選挙事情：選挙違反の歴史から考える公正な選挙のルール

湯川 勇人 氏(人間社会科学研究科法学・政治学プログラム准教授)



大正デモクラシーと呼ばれる時代は、普通選挙法の施行、政党内閣の誕生など、民主主義的な風潮が華やぐと同時に、選挙違反の横行した時代でもありました。この講義では、大正・戦前昭和期に横行した選挙違反が、日本の民主主義をいかに退化させたのかを紹介し、公正な選挙のルールのあり方をみなさんと一緒に考えていきます。